令和 8 年 9 月 宝塚市長定例記者会見 議事録

日　時	9 月 25 日(金) 13 時 00 分から 14 時 00 分まで　場 所 特別会議室
出 席 者 （ 市 ）	市長、両副市長、都市安全部長、都市安全部総括担当及び道路・公共交通担当次長、交通政策課長、管財課長、都市計画課長、スポーツ振興課長、産業文化部観光文化振興担当次長、観光にぎわい課長、観光にぎわい課係員
出席者（ゲスト）	一般社団法人日本コーヒーフェスティバル実行委員会、宝塚珈琲協会、TAKARAZUKA GIRLS ROASTER
出席者（記者クラブ）	朝日新聞社、神戸新聞社、NHK

1　発表案件

(1) 西谷地域の新たな移動手段がスタート 「西谷試験運行バス」出発式を 10 月 2 日に開催

（交通政策課）

【質疑】

（記者）4 月からの本格運行についてお伺いします。期間の区切り方は分かりませんが、例えば 10 月から 12 月までの運行状況のデータ整理を踏まえて、「4 月からどのような運行をしていきたいか」といった具体的な内容については、公に発表される予定なのでしょうか。

またその際、平均利用数がどれくらいあったのかといった、分析結果などのデータも併せて公表されるということでしょうか。発表時期としては、2 月、あるいは直前の 1 月頃になりますでしょうか。

（担当）運行状況や分析結果について公表する予定です。国との調整もございますので、発表時期につきましてはおそらく 2 月か、もしかしたらもう少し遅くなるかもしれません。

（次頁あり）

（2）市民ホール、約6年ぶりに市民の空間へ
三浦璃来さん寄贈の大会着用衣装・スケート靴を初公開
村野藤吾建築の魅力も併せて紹介

（管財課・都市計画課・スポーツ振興課）

（記者）市民ホールについてお伺いします。2020 年までは本来の使い方をしていて、それを今回は元の状態に戻すということですが、元々はどのような用途で使われていたのか教えてください。

（担当）市民ホールは、市が主催するイベント、例えば「仕事始め式」や「表彰式」などの会場として催されていました。文化的な音楽会や演劇といった用途ではあまり使われておりませんでしたが、かなり以前には、お昼休みの時間帯などに短い音楽コンサートなどが開催されていたこともございます。また、日常的には市民の皆様が中に入れる場所として基本的に開放しており、庁内の式典や市長の訓示など、多くの人が集まる際にも利用されていました。その他、担当課によっては様々な展示物を設置し、市民の皆様にご覧いただくような使い方をしておりました。

（記者）2020 年のコロナ禍以降、執務室として使われていたということですが、現在はどの部署が使用しているのでしょうか。

（担当）現在は、産業文化部や子ども未来部などが使用しております。広いスペースを区切り、通常の事務所として執務を行っております。

（記者）三浦選手の展示品の件ですが、資料によると、フリープログラムの衣装 1 点とスケートシューズ、サインが展示されるとのことです。そのスケートシューズは、いつ頃の大会で使用されたものか分かりますでしょうか。

（担当）広報担当の方にも確認いたしましたが、スケートシューズは毎年のように新調されているとのことです。今回ご寄贈いただいたフリープログラムの衣装と同等の時期のものだと思われます。

（記者）展示の横にサインを置く予定はありますか。写真等があれば、そういったスペースに展示されるのでしょうか。

（担当）スペースの許す限り、そういったものも展示したいと考えております。

（記者）オリンピックモデルなどのジャージ等は含まれないのでしょうか。今回、ご本人様から提供ということで、提供された時期や経緯について教えていただけますか。例えば、市民栄誉賞を授与して市民の喜びを伝えたことを受けて、三浦選手から「市民のために」といった経緯があったのでしょうか。

（担当）市民の方から非常に多くのお祝いの声をいただく中で、お祝いと感謝の思いを、ご本人に伝えたいという市民の声がありました。ご本人と直接お会いする

機会を設けることが難しい状況の中、関係者を通してご相談した結果、市民の皆様に見ていただけるように、とご提供いただいたものになります。

（記者）今回の展示にあたり、市民ホールはどなたでも自由に見ることができるのでしょうか。

（担当）今回は企画展として同時開催いたしますので、開庁時間内に限ってどなたでもご覧いただけます。

（記者）展示終了後についてはどうなりますか。

（担当）非常に価値のあるお品ですので、取り扱いについては慎重に検討させていただきたいと思っております。今回のご来場者の状況や反響などを踏まえ、今後常設展示ができるかどうかも含めて、場所の検討を進めていきたいと考えております。

（記者）公民館など、自由に見られる場所での展示を検討される可能性はありますか。市長が前向きかどうかも関係するかもしれませんが。

（担当）（他の場所での展示は）難しいと思います。なるべく多くの方に見ていただきたい一方で、大変知名度の高い方のお品ですので、我々の目の届く範囲でセキュリティなどを考慮しながら検討していく必要があります。

（記者）今回、市民以外からも多くの反響が予想されます。「市役所に行けば見られる」ということで、市外からも来訪されるかもしれません。例えば、今回の展示に対して三浦選手からメッセージやコメントなどが届いている場合は、そのコメントを添えたプレートを一緒に展示するなどの予定はありますか。

（担当）その点につきましては、現在調整中です。ご本人様へ直接のご連絡が難しい状況でもありますので、間に合えば何らかの形で、市民に向けたコメントなどを展示できればと考えております。

（記者）コロナ禍で執務室ではなく、もっと大きなスペースで執務ができるようにという発端から、市民ホールでの執務を始めたということですね。いつ頃までの使用を予定していた等の記録はありますか。

（担当）細かい記録が残っておらず、明確な時期についてはお答えが難しい状況です。

（記者）配布資料に載っている市民ホールの写真についてですが、報道提供は可能でしょうか。

（担当）ご提供可能です。

（記者）これまでの（市民ホールの）使い方としても、パネル展示のようなものは行っていたのでしょうか。

（担当）担当課が様々なパネルを用いて説明を行うなど、パネル展示等の利用はこれまでもございました。

（記者）市民団体からの請願があったと伺っていますが、請願を受けてオープンを決定したのでしょうか。それとも、元々市としてオープンしたい意向があったのでしょうか。

（担当）我々としても、元々オープンにしたいという意向は以前から持っておりました。ちょうど事業が終わるタイミングであったため、オープンに向けて準備を進めていたところに、請願を受けたという経緯になります。

（次頁あり）

(3) 全国約30店が集結　ジャパンコーヒーフェスティバル2026in宝塚

（観光にぎわい課）

（記者）手塚治虫作品をテーマにしたコーヒーとのことですが、少しイメージが湧きにくいです。具体的にどのようなものになるのでしょうか。例えば、過去に「火の鳥」をテーマにしたイベントをされていたかと思いますが、その際のコーヒーはどのようなものだったのですか。

（ｹﾞｽﾄ）例えば「火の鳥」を皆さんに読んでいただいて、その「読書感想」をイメージしたコーヒーになります。毎回、我々コーヒー屋に対して手塚治虫さんの作品というテーマが与えられます。昨年のテーマが「火の鳥」だったので、各店舗が『火の鳥』をしっかりと読み込みます。「『火の鳥』のどの部分を表現して、この味のコーヒーになったか」というコンセプトを、パンフレットにすべて記載するんです。

私の場合は、数億年前の地球ができる頃の物語の描写を読み、コーヒー発祥の地であるエチオピアと結びつけて、エチオピア産のコーヒー豆を入れたと記憶しています。毎回、味やビジュアル、素材の選定において、どう表現するか非常に悩みます。 お店によっては、複数の豆をブレンドして作品のイメージの味に近づける店舗もあります。

抽出方法に関しても、ハンドドリップで淹れるお店がほとんどですが、中にはラテアートを提供するお店もあり、昨年のイベントでは『火の鳥』のラテアートを描いて提供したお店もありました。各お店が、それぞれのイメージでコンセプトを作り上げているという形です。作品の「概念」をコーヒーに乗せるようなイメージですね。作品の味わい方とコーヒーの概念を関連付けたり、意味を持たせたりして表現しています。

今回テーマとなっている書籍『ガラスの地球を救え』ですが、これは本当にタイトルの通りで、「地球が壊れかかっているんだよ」という危機感を、1980 年代後半にはっきりと手塚治虫さんが捉えておられたことを示すものです。当時の事象や現在起きている出来事、そして「未来はこうなるのではないか」という手塚さんの考えが詳細に書かれている素晴らしい本ですので、ぜひ読んでいただきたいです。

（記者）この本は 1989 年に最初に出版されたものですね。帯には「まだまだ間に合う」と書かれています。

（ｹﾞｽﾄ）当時は「今ならまだ間に合う」という認識でした。そこから約 40 年が経ち、正直なところ、現在の日本や世界はこの本に書かれている通りの状況になっていると感じます。しかし、今これに気づいて行動できることはまだまだたくさんあると思うので、今こそ読まれるべき本ではないかと考えています。

「2050 年問題（コーヒーの生産地減少問題)」があるからというわけではありませんが、コーヒーも農作物ですので、地球が元気でなければコーヒーも元気には育ちません。私自身、現在たくさんのコーヒー産地に足を運んでいますが、土地が元気で、そこで働く人々も元気でなければ、美味しいコーヒーはできません。 ですから、「自然はいいよね」「自然は大事だよね」といった表面的なものではなく、本当に自然環境の大切さが腑に落ちるきっかけになればという思いがあります。この本にはまさにそういったことが書かれています。
私もコーヒーが大好きで、ずっと美味しいコーヒーを飲んできました。コーヒーがなくなったら非常に嫌ですし、困る人もたくさんいるはずです。そういった思いもあって、この本をテーマにしました。 販売するのは基本的にコーヒーのみですが、各コーヒー屋さんが用意する焼き菓子等の販売や、お昼ご飯としてのお弁当の販売などは行う予定です。

（記者）過去にも何度か取材をさせていただきましたが、手塚プロダクションの協力というのは、ずっと以前から続いているのでしょうか。

（ｹﾞｽﾄ）はい、そうです。

（記者）過去のイベントの印象についてですが、手塚プロダクションの協力がある割には、手塚作品を大きくフィーチャーした展示や装飾があまりなく、意外に地味というか、ポスター程度のささやかなものだったと記憶しています。今回の会場風景はどのような感じになるのでしょうか。

（ｹﾞｽﾄ）今回も大きくは変わらないと思います。

（記者）今回のテーマである『ガラスの地球を救え』ですが、最近、手塚治虫記念館でも企画展が開催されました。漫画作品ではない「文字メディア（エッセイ)」であるため、漫画以上にビジュアル化が難しい部分もあるかと思います。記念館での特別展示で使われた資料などを活用・協力してもらうといった予定はありますでしょうか。

（ｹﾞｽﾄ）もちろん、協力していただけるというお話はありました。ただ、今回は私がこのイベントの主催であり、『ガラスの地球を救え』に対する個人的な思い入れも強かったため、担当の方とお話しする中で「それならご自身で構成してやってみてはどうか」という流れになりました。確かにその通りだと感じ、実行委員会のメンバー全員でこの本を読み込み、心に響くフレーズや文言を抜き出しました。それを私たちが独自の視点で読み解き、別の形で抽出して、それに合う手塚作品を選定しています。 その作品の一部はパンフレットにビジュアルとして掲載し、会場内にも取り入れますが、会場内を派手に装飾するといった予定はありません。手塚治虫さんのキャラクターを大きく打ち出せば、集客はしやすいとは思います。しかし、派手に人を集めるというよりは、地味であっ

ても「じっくりと自分に向き合う時間」として過ごしてほしいという思いが強いので、今の形が良いと考えています。

（記者）今回初めて大手前大学の学生さんが参加されるとのことですが、全国から集まるプロフェッショナルな店舗の中で、学生の出店というのはどのような位置づけになるのでしょうか。

（ｹﾞｽﾄ）そこも含めて、プロの味と比べてみてほしいと考えています。「大学生が淹れたから美味しいわけがない」という思い込みが本当に正しいのか、一度フラットな視点で体験していただきたいのです。私たちは普段から、大学生だけを集めたコーヒーイベントなども開催しています。最近は大学内にコーヒーサークルが多くできており、中には本当にプロ顔負けの素晴らしいコーヒーを作る学生もいます。

２　その他

【質疑】

（記者）川西市の市長選がありますが、選挙の応援や、新しい市長が当選された際のご対応についてお伺いします。

（市長）以前、市議会でもお話しいたしましたが、私はどなたの選挙も応援しないとお約束しておりますので、いわゆる告示期間中に特定の候補者を応援することは控える考えでおります。 もし何らかの形で「宝塚市の市政について報告してほしい」といったご依頼があれば、お受けすることはあるかもしれませんが、先日の決起集会におきましても、公務のため出席できなかったためメッセージを送らせていただくにとどめました。基本的にはそのようなスタンスで対応してまいります。

以上